

爾靈山にれいさん（乃木希典のぎますすけ）

爾靈山險豈難攀 男子功名期克艱  
鐵血覆山山形改 萬人齊仰爾靈山

爾靈山にれいさんは 險けんなれども 豈あに 攀よじ難がたからんや

解説 日露戦争のさなか第三軍司令官として指揮をとった乃木希典が、ようやくにして二〇三高地を落とすことができた後、その戦鬪の激しさをふり返り、兵卒の勇ましさと、若くして散った多くの英霊への感謝とを詠じた詩である。

男子だんしの 功名こうみょう 克艱こつかんを 期きす

語釈 ※爾靈山にれいさん＝二〇三高地を音訳したもの。「爾、幾万の英霊の籠れる山よ」の意味であろう。※險けん＝けわしい。要塞堅固。※宣のたま＝反語。どうして〜であろうか。どうして攀よじ登ることがむずかしいであろうか、いや攀よじ登るのは容易だ。※克艱こつかん＝艱難かんなんにうち克つ。※鐵血てつけつ＝武器と兵士の血。※齊ひと＝皆、そろって。

鐵血てつけつ 山やまを 覆おおうて 山形さんけい 改あらたまる

通釈 二〇三高地は、いかにもその要塞のが堅固である。だが、どうして攀よじ登れないことがあるうか。突破できないことはあるまい。

万人ばんじん 齊ひとしく 仰あおぐ 爾靈山にれいさん

男子たる者、功名を立てようとするならば、艱難かんなん辛苦くにうち克とうと心中に期するものがないはずはない。悪戦苦鬪の中を、砲丸と肉弾とをもって突撃また突撃、ついにこれを陥落させた。戦いは武器と骸むらで山形さんけいが改まるほど激しいものだった。誰しも皆、この地を仰ぎ見るとき、幾多の将兵の勇氣と犠牲とに思いを致すであろう。